

東春近小:山崎

今回の授業から、**子どもたちが非常に楽しんでおり、お互いに積極的に関わりながら活動していた様子**がうかがえます。他の子の作品を見て自分も試したり、完成した作品を先生に見せに行ったりする姿が見られました。強制されることなく、**それぞれの発想でオリジナリティを発揮していた点**も評価されています。すでに小さな作品を作り上げている子もいたほか、何を描こうと意識せずとも、感覚で色を乗せたり描いたりする姿も見られ、発想に繋がっていると評されています。

授業ではモダンテクニックが用いられ、これは**今後の美術表現や立体作品制作にも繋がる重要な授業**であると認識されています。小学校のうちに基礎を習得しておくことで、中学校での応用にも役立つと考えられています。

◎一方で、いくつかの課題も挙げられています。

- **スクラッチ**:子どもたちが全面を黒く塗ってしまう傾向があり、作品が大きすぎると大変だという点が指摘されています。小さめの紙を使うか、スクラッチ部分を限定するなど、**用紙サイズやデザインの工夫が必要だ**と提案されています。全面を埋め尽くしたがるのは小学生らしい行動とも言えますが、デザイン的な思考が難しい子には特に小さく区切ることが有効とされています。スクラッチコーナーの机上に小さめの専用用紙を置いておく等の工夫を加えるとさらに良いと思われます。
- **スパッターリング**:子どもたちにとって**最も難しい技法**であり、絵の具の濃さや紙との距離、網を使う加減などが難しいため、ほとんどの子がうまくいかないと感じていたようです。教材研究で最適な加減を教師が把握し、**スパッターリングだけに1時間を費やしてじっくり取り組ませることで、2〜3色で生まれる感動的な美しさ**を体験させられるのではないかと提案がありました。また、ストローを使ったモダンテクニックである「ドリッピング」と混同されている点も課題として挙げられています。
- **バチック**:クレヨンが水を弾かず、下のクレヨンの色が綺麗に出ないという問題がありました。これはクレヨンの質(油分量)や絵の具の濃さが原因と考えられ、**油分が多いクレヨンを使用し、絵の具を薄くするなどの工夫が必要だ**とされています。100円ショップ等で売られている油分の少ない固めのクレヨンは水を弾きにくいといった、画材の質も影響するようです。

◎授業の導入と準備に関しても改善点が提案されています。

- **実演の重要性**: 小学校の子どもは、口頭での説明だけではイメージがしづらいため、各技法を 30 秒～1 分程度で短く実演して見せることが提案されています。例えば、フロッタージュであれば教師が 15 秒で 500 円玉を擦り出す様子を見せることで、子どもの興味を一気に引きつけられるとのことでした。
- **環境整備**: 机が汚れることを想定して新聞紙を事前に敷いておくことや、こぼしたらすぐにぞうきんで拭くというルールや、使用済みのスパッタリング用網を使った人がその都度洗うルール等を設けておくことが挙げられています。
- **教材の表示**: 机の上に大きな見本を置くのではなく、「ドリッピングコーナー」「フロッタージュコーナー」のように札で表示しておくことで、美しく作られたサンプルが汚れず、子どもたちが技法の名称をしっかりと覚えることにも繋がるとされています。フロッタージュがあまり行われなかったのは、サンプルと簡単な口頭説明だけでは子どもの興味が惹きつけられなかったためであると考えられています。

あかね先生の関わりは非常に高く評価されています。子どもたちの意見を取り入れたり(荷物の置き場所など)、作品を積極的に褒めたりすることで、子どもたちの自信と意欲の向上に繋がったとされています。特にモダンテクニックのような意図しない表現から生み出される感動を伴う技法では、先生の肯定的な声かけが重要であり、校長先生や向山先生も同様に子どもたちを温かく見守り、褒めていた点が本当に素晴らしいと語られました。

全体として、子どもたちが生き生きと活動できたことが素晴らしいと評価されています。「次は何をしようかな」と前向きな言葉を笑顔で発する子どもの姿があったことがそれを証明していました。授業で作成した作品をメッセージカードに利用するといった**今後の活用法**が示唆され、2名の先生はその完成を見届けたいと願っています。

この授業は、まるで**未知の食材を使った料理教室**のようです。子どもたちは様々な「モダンテクニック」という調理法を体験し、自分だけの「作品」という料理を作りました。先生は温かい言葉で励まし、試行錯誤を見守りましたが、一部の調理法(スパッタリング、バチック)は難しく、もっと手順を実演したり、材料(クレヨン)を選んだり、調理スペース(机)を整えたりすることで、さらにスムーズに、そして美味しく(美しく)作れるようになっただろう、という発見があった、という状況です。